



2018年 クリスマス

親愛なる姉妹、友人の皆さま

今年もまたクリスマスの季節になりました。この特別な祝日にあたり、皆さまに溢れるほどの喜びがありますように。クリスマス、それは会の中で皆が互いに祈り、挨拶を送り合い、きずなを深める時です。私たちと共におられる神、インマヌエルのお祝いが皆さまに大きな喜びをもたらしますように。

「民全体に与えられる大きな喜び」(ルカ 2・10) .あなたとあなたの愛する一人ひとりにも。

クリスマスの夜、光は闇を打ち砕きます。闇と絶望は拭い去られ、夜明けはすべての民に新しいのちと自由の到来を告げます。喜びは地に満ちあふれ、神の優しさに包まれて分かち合う時です。ひっそりと人知れず生まれる幼子が布に包まれて飼い葉桶に眠っています。この幼子こそ、私たちの間で息づき、眠っているメシヤ、救い主、神の栄光なのです。

この夜、神は私たちの間に生まれることをお選びになりました。私たちは与えられたこのみ言葉を信じています。クリスマスの夜、私たちが心を開いて目を覚ましているのを神が気づいてくださいますように。そうすれば私たちが日ごろ関わっている人、日々顔を合わせ、私たちのところにくるすべての人にとって、私たちの開いた心が安らぎの港となるでしょう。

今年のクリスマスカードには、これから生まれてくる幼子を伴ってベツレヘムに向かって旅するヨセフとマリアが描かれています。まだ生まれていない主の栄光は、マリアとヨセフの周りで輝きながらも、人々には見えていません。

「ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなづけのマリアと一緒に登録するためである。」(ルカ 2・4-5)。

ベツレヘムへの旅はヨセフとマリアにとって容易ではありませんでした。マリアにとって自分の子どもの誕生前の日々がこのようなものであろうと



は思いもしなかったでしょう。幼子の誕生を間近に控え、彼らはナザレの自分達の家を出ていかなければなりません。ベトレヘムへの長い旅の後で、泊めてくれる宿もなく馬小屋に身を寄せるしかありませんでした。

待降節と降誕節は、この混乱の時代において私たちがどのようにして闇に希望を見つけられるかヒントを与えてくれます。この時期、マリアに思いを馳せるのは私たちにとって助けになります。マリアも時には恐れ、混乱しながらも、行く手にある未踏の地を進んで歩もうとしていたのです。彼女はヨセフと共にいて、最もつらい時期も乗り越えました。「私たちがこれからたどる道に十分な光が与えられると信じて次の一歩を踏み出すことができたなら、私たちは生涯、驚くほど歩み続けられるでしょう。」(ヘンリー・ナウエン)

クリスマスの物語はチャレンジに満ちています。特に驚くべきことは神が私たちの間に生まれるのを選んだということです。それは息をのむようなことでもあり単純なことでもあります。私たちに目を見張らせます。「私たちの為に救い主がお生まれになった。この方こそ主キリストである。」(ルカ 2)。

この幼子は神のものであり、またすべての人のものでもあります。

「一方、マリアは」と福音書は言います「これらの出来事をすべて心に納めて、思いめぐらしていた。」(ルカ 2、19) 彼女はその出来事を考えます。彼女は祈り、思いめぐらします。祈りの人、耳を傾け、識別する人としてマリアは私たちの模範です。おそらく彼女も恐れていたでしょう。しかし彼女は徐々にひも解かれていく神秘に心を開いてその意味を理解しようとし、神が彼女に求めていることに応えようとなりました。

ヨセフが素晴らしい聴き手であったということ以外、彼について私たちはほとんど知りません。夢に天使が現れて、マリアの胎の子は聖霊を通して宿ったのだという声をヨセフは聞きました。これはヨセフにとっては思いもかけないことでしたが、彼は耳を傾け天使が命じた通りにしました。「彼は妻を迎え入れた」(マタイ 1:24)。こうしてヨセフは新しい、思いがけない家族を生涯受け入れました。彼はまたベトレヘムで天使たちの声を聴きました。

「恐れるな、私は大きな喜びを告げる。」(ルカ 2:10)



私たちが深く耳を傾けることが求められています。特にこのクリスマス、

「聞きなさい！わたしはあなたたちを新しい道に遣わす」というテーマのもとに総会の準備を進めている私たちに。これは世界中のすべての姉妹や友人と共に歩む旅です。マリアとヨセフと幼子イエスの旅のように、徐々に道が開かれていきます。聞きましょう！私たちが新しい道、新しい地平に導かれているように、お互いを通して主の声を注意深く聞きましょう。さらに注意深く心で聴きましょう。主のみ声を聞きましょう、主はどの道をとれば良いのか少しずつ明らかにしてください。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。

あなたたちはそれを悟らないのか？」(イザヤ 43:19)

どのような新しい地平に私たちは導かれるのでしょうか？フランシスコ教皇は告げています。「大きな人類家族のために、私たちが歩んでいる共通の地平を常に新たにする必要があります。希望の地平！これこそ旅を安全なものにします。」

クリスマスは自分の心に触れ、キリストの誕生を喜んで迎えるときにこそ意義があるのです。クリスマスは私たち一人ひとりにとってキリストが誰であるか、私たちと、そして私たちの生活に何を意味するか思い起こすように招いています。キリストが私たちの生活にもたらす“付加価値”は何でしょうか？

キリストと共にある私たちの生活は、キリストを信じていない人、キリストの存在に触れることも、感化されることもない人の生活とどう違うのでしょうか？

ご降誕の祝日は、年間のどの時よりも、キリストこそ真の光であるということを思い起こさせてくれます。キリストは今日私たちの為にお生まれになるのです。彼は私たちの中に永遠の炎をともしたために天から降ってこられたのです。私たちは自分たちのためだけに光を保つことはできません。この光はすべての人にとって意味あるものです。宗教や生まれはどうであれ、すべての善意の人々と繋がるために、私たちの創造性を引き出すことができますように。そうすればキリストの光が私たちの世を照らすでしょう。この光が私たちの闇を照らし、全世界にあふれる喜びが広がりますように！クリスマスには「これほどの闇の中においても、希望の光を見て、他者に希望をもたらしものになりましょう。」(フランシスコ教皇)。



クリスマスのお祝いの中心は飼い葉桶に眠る生まれたばかりの幼子キリスト、そして彼が世にもたらす愛と救いです。クリスマスは、神が私たちの近くに来て、ひとり一人と人生を共に歩みたいと望んでいるのを思い起こさせます。イエス・キリストはインマヌエル、主は我々と共におられる、のです。

クリスマスの喜びと希望のうちに

公子、マリア、ノーリーンと共に

マリー ピッチャー